初めまして。医師5年目の窪田淳志と申します。初期 研修は諏訪赤十字病院と信州大学医学部附属病院でお世 話になり、3年前から佐久総合病院グループで専門医の 研修を受けています。将来は総合診療科や家庭医の専門 の道へ進もうと考えています。川上村では2022年4月か ら外来診療をさせていただいています。



長野へは、父方の祖父が塩田出身だったため、その関係で中学の頃に家族で大阪から引っ越してきました。高校は上田高校を卒業し、大学は関西方面の大学を卒業し、研修と将来的な医療はお世話になった地元でやりたいと思い長野に戻ってきました。外来はもち

ろんですが、訪問診療もとても興味深く、自分が 医師をめざした初心を思い出させてくれる場面も 多々あり、「ヒトが生きる」ということを考える ことが多くなりました。

川上村診療所で水曜日の午後に外来をさせても らっていますが、川上の診療では人のつながりを より感じることが多くなりました。農業にはこれ まで縁がなく経験もないのに、こんなことを思う



南相木ダム

のは変なのですが、村の健康や医療は農業に似ているのではないかと感じることが多いで す。村での診療は川上村の方々を一人ひとり診ているだけでなく、その周囲、延いては村



夏の川上村

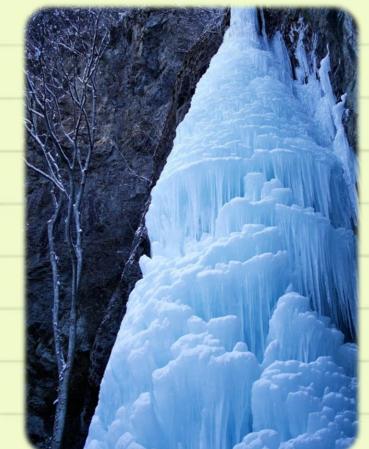
全体を診ているような思いで取り組まなければ ならず、そのためには歴史や時間の流れも重要 な要素ではないかと感じました。またその逆に、 その個人を診るには村全体を診なければ分から ないことが多々あることも感じるようになりま した。都会や街で全くそういうことがないかと いうと、そんなことはないと思うのですが、川 上村での診療はより濃くその関係性を感じる

きっかけになったと思います。村、時の流れ、人…その中で働けていることを身に沁みて 感じながら、日々診療に勤しんでいこうと思います。

まだまだ精進が足らず、未熟者ではありますが、生温かく 見守っていただき、時には頼っていただけるようになれれば 嬉しい限りです。

最後に僕の好きな詩人の作品から、一部分だけですがご紹介したいと思います。

遠い国は おぼろだが 宇宙は鼻の先 なんという恩寵 人は 死ねる そしてという 接続詞だけを 残して



北相木の氷瀑

谷川俊太郎『minimal』(2002年. 思潮社)「そして」より